

農林水産商工常任委員会提出資料

(令和元年9月13日)

項目	ページ
1 雇用就農支援と学生確保の取組について 【農業大学校】	1
2 農林水産部試験研究課題にかかる令和元年度外部評価委員会の 結果について 【とっとり農業戦略課】	2
3 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	4
4 第1回鳥取県立とっとり花回廊魅力向上検討会議の開催結果に ついて 【生産振興課】	5
5 「星空舞」の生産状況及び販売について 【生産振興課、食のみやこ推進課】	6
6 とっとり森と緑の産業ビジョンの見直しについて 【林政企画課】	7
7 2018年漁業センサス鳥取県結果(概数値)の概要について 【水産課】	9
8 ベニズワイガニの解禁について 【境港水産事務所】	11
9 鳥取県産品の情報発信に係る取組について 【販路拡大・輸出促進課】	12

農 林 水 産 部



雇用就農支援と学生確保の取組について

令和元年9月13日
農業大学校

雇用就農支援と学生確保の取組について、以下のとおり報告します。

1 雇用就農支援

近年、非農家出身の学生の増加や雇用就農の希望者が多くなってきていること、併せて規模拡大を進める農業法人・農業者からの求人が増えてきている現状から、両者のマッチングの場として雇用就農相談会を開催し（年2回）、面談・情報交換を行っている。

近年は約60事業者/年が参加しており、学生・研修生への期待がうかがえる。また、学生は1年次から参加させ、事業者と直接話をして就農イメージを具体化する場としている。

本年度第1回相談会を7月18日に開催した。参加事業者の約8割が「農家留学などの研修受入れも可能」であり、新規就農者育成に向けた連携を一層深めていきたい。第2回相談会は11月に開催予定である。

【雇用就農相談会の参加者数と学生・研修生の就職者数】 (単位：人)

年度	H27		H28		H29		H30		R1	
	7月	11月	7月	11月	7月	11月	7月	11月	7月	11月
参加事業者	16	19	29	36	26	36	36	21	32	
参加学生	20	39 (1)	48 (1)	64	36	42 (1)	57 (4)	45	41 (2)	
就職者数	7		10		7		4			

※参加学生は研修生および外部参加者を含む。()は外部参加者数(内数)。

2 学生確保の取組

養成課程の学生募集の一環として、高校生等を対象にオープンキャンパスを開催し（年2回）、学校説明・施設見学後、希望のコースに分かれて学生の指導による実習体験（農産物の収穫調製、トラクター・コンバイン操作、牛の世話など）を行っている。

本年度は（7月22日、8月22日に開催）計26名（内県外者10名）が参加し、農業大学校を体感した。参加者からは「施設が充実し、しっかり学べる環境が整っていると感じた」、「高校では農業を学んでいないので、入学していろいろ学び、将来に活かしたい」、「是非入学したい」などの意見が寄せられた。

このほか、鳥取県高等学校進路指導研究協議会（高等学校課）や学校ガイダンス（各高校が実施）での学校紹介・説明、県内高校訪問による入学希望者の情報収集など行い、学生確保に努めている。

【オープンキャンパスの参加者数と入学者数】 (単位：人)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
参加者	38 (35)	41 (25)	36 (23)	37 (22)	44 (27)	26 (19)
入学者	16	15	12	15	15	—

※参加者の()は3年生の参加者(内数)。

入学者は、オープンキャンパス参加者で次年度に入学した者

農林水産部試験研究課題にかかる令和元年度外部評価委員会の結果について

令和元年9月13日
とっとり農業戦略課

外部の有識者の方々による幅広い視点をもとに試験研究課題の選定、試験研究の効率的な実施及び広範囲に普及可能な技術の確立を図ること等を目的として、試験研究課題の外部評価を行いました。

1 外部評価委員会

- (1) 実施日 8月9日(金)、8月26日(月)
 (2) 評価者 学識経験者(鳥取大学、公立鳥取環境大学)、流通・経済界(市場関係者)、生産者(農業・林業・水産業関係者)、消費者 計11名

2 評価結果(別紙参照)

(1) 評価対象

- ア) 来年度から取り組もうとする研究課題(事前評価対象 6課題)
 イ) 4年以上の試験研究課題のうち研究期間が中間に達した研究課題(中間評価対象 7課題)

(2) 評価結果の概要

- ア) 事前評価課題 6課題全て、研究を実施する。
 イ) 中間評価課題 6課題は、研究を継続する。1課題は、研究課題を見直して継続する

(3) 研究内容・方法の見直し等に関する委員の主な意見

試験場	研究課題名	委員意見
農試(事前)	「星空舞」のブランド化を支える研究	ブランド米として全国に高評価を得られる事を期待している。
園試(中間)	産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立	農家の負担軽減に繋がり、収益が上がる研究と思う。今後も長期的な取組が必要である。
中小家畜(事前)	ゲノム育種価を活用した大山ルビーの育種改良	生産農家が少なくても将来を見すえて、県が試験に取り組むことは重要である。
中小家畜(中間)	コンパクトで低コストな脱臭装置の開発	養鶏業者にとって、必要な技術開発であり、臭気除去後に発生する汚水処理方法も検討する必要がある。
林試(事前)	原木シイタケにおけるシイタケオオヒロズコガ類の虫害防除技術の研究	未知の部分が多く、研究課題としては非常に面白いテーマ、鳥取県としての研究成果の効果を期待している。
林試(中間)	早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験	生産者の方が大きな期待を寄せている研究。とても大切なことであり、期待している。
栽漁セ(事前)	ナマコ増養殖試験	資源の増殖のためには、漁業者による活動が必要、研究段階からの連携をお願いしたい。
栽漁セ(中間)	資源回復技術開発試験	現場に還元できる研究成果であり、より具体性のあるマニュアル作成を期待している。

3 今後の取組

- 委員からの意見はかなり高度で専門性の高いものもあるが、試験研究課題への反映を検討し、効果的な研究になるよう努める。
 ○今回の結果はホームページ等でも公開し、広く一般県民の皆様へ試験研究課題への理解を図る。

8月9日、26日農林水産部試験研究機関の試験研究課題外部評価委員会 評価結果

試験場	区分	試験研究課題名	試験期間	合計点	総合評価
1	農業試験場	事前 「星空舞」のブランド化を支える研究	R 2 ~ R 4	13.6	◎
2	園芸試験場	中間 産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立	H 29 ~ R 3	13.0	◎
3	中小家畜試験場	事前 ゲノム育種価を活用した大山ルビーの育種改良	R 2 ~ R 6	12.9	◎
4		事前 大山ルビーの新たな旨み成分に関する研究	R 2 ~ R 4	13.0	◎
5		中間 コンパクトで低コストな脱臭装置の開発	H 28 ~ R 2	11.8	○
6		中間 鳥取地どりピヨの遺伝資源保存技術の確立	H 29 ~ R 3	12.6	◎
7	林業試験場	事前 原木シイタケにおけるシイタケオオヒロズコガ類の虫害防除技術の研究	R 2 ~ R 4	13.0	◎
8		事前 チップ原木の水分管理と価格設定に役立つ簡易な含水率判定手法の確立	R 2 ~ R 4	13.2	◎
9		中間 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験	H 29 ~ R 3	13.0	◎
10	栽培漁業センター	事前 ナマコ増養殖試験	R 2 ~ R 4	12.4	◎
11		中間 東郷池ヤマトシジミ資源回復試験	H 26 ~ R 5	12.3	◎
12		中間 アユ資源緊急回復試験	H 29 ~ R 4	12.6	◎
13		中間 資源回復技術開発試験	H 29 ~ R 3	13.1	◎

平均値	事前評価	中間評価
◎:12点以上	研究を実施する。	研究を継続する。
○:9点以上12点未満	研究内容、方法を見直して実施する。	研究内容、方法を見直して継続する。
×:9点未満	実施を見合わせる。	研究を中止する。

評価項目	
事前評価	研究ニーズ・緊急性 研究計画・目標の整合性 生産者・消費者への波及効果
中間評価	必要性・社会情勢の変化 進捗状況及び達成見込み 生産者・消費者への波及効果

主要農産物の生産販売状況について

令和元年9月13日
生産振興課

直近の西瓜及び梨の生産販売状況（全農とっとり取扱）について、次のとおり報告します。

1 西瓜

- (1) 栽培面積: 271ha(前年比95%) → 内訳: 大栄169ha、倉吉90ha、東伯8ha、その他4ha
 (2) 生育状況: 4月は交配期の低温により一部着果不良があったが、5月の好天で生育は回復して順調な肥大となった。
 (3) 販売状況: 大玉傾向で販売数量は前年を上回り、過去2番目の219円/kgと高単価となった(前年は過去最高)。
 特に鳥取型低コストハウスの導入で6月の販売数量が増え堅調な販売となり、販売額は前年を上回った。

区分	初販日～8月10日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(kg/円)	販売額(百万円)
R1年度	13,631	219	2,988
H30年度	12,992	221	2,868
前年対比	105%	99%	104%

2 梨

本年は開花、生育とも平年並で、梅雨入り前までは十分な日照と適度な降雨があったことから順調だった。梅雨入り後は曇天が続き、梅雨明けも遅れたことで、査定会では「ハウス二十世紀」、「なつひめ」の糖度はやや低くなった。8月に入って好天に恵まれ、「二十世紀」、「新甘泉」は大きさ、糖度とも平年並に仕上がった。露地梨の収穫時期は、開花及び生育が早かった昨年と比べて2～4日遅くなった。

◇ ハウス二十世紀

- (1) 栽培面積: 16.1ha(前年比91%)
 (2) 販売状況: 販売は8月2日(前年8月2日)から始まり8月23日ではほぼ終了した。単価は前年を上回る646円/kg(過去最高)と高単価となった。

区分	初販日～8月23日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(kg/円)	販売額(百万円)
R1年度	412	646	266
H30年度	495	614	304
前年対比	83%	105%	88%

◇ なつひめ(露地)

- (1) 栽培面積: 16.6ha(前年比96%)
 (2) 販売状況: 販売は8月19日(前年8月17日)から始まり、「ハウス二十世紀」と「二十世紀(露地)」の間でリレー出荷できる青ナシとして8月27日まで出荷された。単価は前年並の434円/kgと高単価となった。

区分	初販日～9月5日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(kg/円)	販売額(百万円)
R1年度	119	434	52
H30年度	125	430	54
前年対比	95%	101%	96%

◇ 二十世紀(露地)

- (1) 栽培面積: 254ha(前年比93%)
 (2) 販売状況: 販売は8月27日(前年8月23日)から始まり、単価は前年を上回る417円/kgと高単価となっている。本年は、販売数量3,617t、目標単価360円/kgを計画している。

区分	初販日～9月5日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(kg/円)	販売額(百万円)
R1年度	1,399	417	584
H30年度	1,966	369	726
前年対比	71%	113%	80%

◇ 新甘泉(露地)

- (1) 栽培面積: 75ha(前年比105%)
 (2) 販売状況: 販売は8月24日(前年8月20日)から始まり、単価は前年並の484円/kgと安定した高単価が続いている。本年は、販売数量1,023t、目標単価469円/kgを計画している。

区分	初販日～9月5日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(kg/円)	販売額(百万円)
R1年度	343	484	166
H30年度	392	475	186
前年対比	88%	102%	89%

第1回鳥取県立とっとり花回廊魅力向上検討会議の開催結果について

令和元年9月13日
生産振興課

開園20周年を迎えたとっとり花回廊の更なる魅力向上を図るために、花壇、緑花木等の管理や誘客等の課題及び対策について、有識者等の意見を伺う検討会議を開催しましたので、その概要を報告します。

1 日時・場所 令和元年8月21日(水) 午前10時から正午 とっとり花回廊

2 委員

一般社団法人日本造園建設業協会技術調査部長(座長)	野村 徹郎(のむら てつろう)
一般社団法人山陰インバウンド機構事業本部長兼プロモーション部長	
	青山 佳生(あおやま よしお)
鳥取県南部町観光協会観光プロモーター	遠藤 聖(えんどう せい)
一般財団法人鳥取県観光事業団本部長	山口 康介(やまぐち こうすけ)
一般財団法人鳥取県観光事業団とっとり花回廊園長	西田 雄二(にしだ ゆうじ)
鳥取県農林水産部次長	中西 眞治(なかにし しんじ)

3 概要

(1) 報告事項

- ・入園者数が漸減傾向にあり、入園者数増加に向けた更なる魅力向上対策が必要であること。
- ・令和元年度6月県議会での提案を受け、有識者等による検討会議を開催して、各種対策を検討することとしたこと。

※直近10年の入園者の動向

(単位:千人)

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
409	381	358	353	334	389	393	332	319	316

(2) 協議事項及び委員の主な意見

ア. 花壇、緑花木等の管理に関する事

- ・土づくり、花壇のローテーションや園内整備のため、閉園期間を設けることも検討してはどうか。
- ・樹木が大きくなりすぎている。造園専門家の指導を受けて5、6年かけて徐々に剪定すべき。

イ. 誘客対策に関する事

- ・見るだけの施設から一步進んで、体験型のイベント等の充実が必要。
- ・簡単ではないが花回廊といえこれだというキラーコンテンツを探すべき。

ウ. 地域との連携に関する事

- ・樹木管理は多大な経費が必要。造園建設業協会に相談し実技講習会に活用すれば経費削減にもなる。
- ・地元から愛着を持ってもらうことが重要。例えば、近隣地域の20歳、30歳、40歳などの節目の歳の入園者を無料にしてはどうか。

エ. その他

- ・フラワートレインが途中下車できるようになると良い。
- ・管理作業をアトラクションの一つとして見せることもあっても良い。

4 今後の予定

- 10月 ・委員個別意見聞取 委員に詳細な対策について再度意見聞き取り。
 ・中間取りまとめ 早急な対策が必要なものは11月補正又はR2当初予算要求する。
- 3月 ・第2回検討会議 長期的な対策を要する事項については、引き続き検討を行う。
 ・最終とりまとめ

「星空舞」の生産状況及び販売について

令和元年9月13日
生産振興課
食のみやこ推進課

本県が育成したオリジナル品種「星空舞」を、本県を代表する主食用品種となるよう生産を推進しており、今月下旬から本格販売が始まることとなったので、その概要を報告します。

1 生産状況について

- ・ R 元年産の作付面積及び生産者数

地域	J A鳥取 いなば	J A鳥取 中央	J A鳥取 西部	合計	参考： H30 年産
作付面積 (ha)	101	145	118	364	5.1
生産者数 (名)	141	257	227	625	23

- ・ 8月26日から9月2日に県内全域の実証ほを巡回調査したところ、生育は概ね順調で、9月中旬頃に刈取りが始まる見込み。

2 星空舞のPRと本格販売開始について

本年度からの本格販売は、統一パッケージを用いてまずは県内外で知名度を上げることを目標とし、各種イベント、新聞広告掲載、テレビCM放映、雑誌掲載等を積極的に実施する。

・ 現在計画中の主なイベント等は以下のとおりである。

(1) 県内

9月21日(土)から県内JA直売所(地場産プラザわったいな、愛菜館、満菜館、アスパル)で販売を開始し、初日には「わったいな」で初出荷を祝うセレモニー、来場者へサンプル米プレゼント、購入者対象の抽選会等の初売りイベントを開催する。

また、10月1日(火)から県内小売店での一斉販売が開始する。

(2) 関西圏

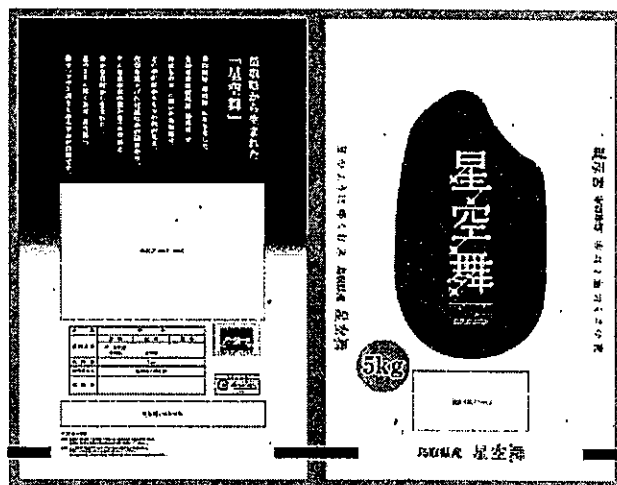
10月5日(土)からの阪急オアシス76店舗での本格販売開始に合わせ、JR大阪駅アトリウム広場で初販売セレモニー、来場者へサンプル米プレゼント等の初売りイベントを開催し、その後阪急オアシス各店舗に移動し試食宣伝PRを実施する。

また、関西圏での初売りに合わせ、JR大阪駅デジタルサイネージ広告、通天閣のビリケンさんへの奉納等のPRを予定している。

(3) 首都圏

10月16日(水)からの伊勢丹新宿店「鳥取県フェア」、伊勢丹立川店「全国お米フェア」で販売開始するとともに、同日から羽田空港ANA festa及びアンテナショップでも販売を開始する。

また、東京モノレール羽田空港駅に巨大看板を掲出するほか、東京スカイツリーで開催されるイベントへ出展し、試食宣伝PR等を予定している。



「星空舞」統一パッケージ

とっとり森と緑の産業ビジョンの見直しについて

令和元年9月13日
林政企画課

林業・木材産業の成長産業化等に向けて平成26年5月に策定した「とっとり森と緑の産業ビジョン」について、森林・林業等を巡る環境の変化を受けて1年前倒して見直しを検討しています。見直しに先立ち、令和元年8月28日に鳥取県森林審議会（会長：根本鳥取環境大学環境学部副学部長、有識者：15名）を開催したので、その状況を報告します。

1 改訂の趣旨

- 平成31年4月に森林経営管理法が施行され、市町村が森林の経営管理に主体的に取り組む「新たな森林管理システム（森林経営管理制度）」が始まり、皆伐再造林を推進するための民間事業者による基金の創設、レーザ航測やドローン等を活用したスマート林業の進展など、森林・林業・木材産業を巡る環境が大きく変化し、新たなステージに入ってきている。
- 令和新時代を迎え、これらの変化を踏まえ、新たな取組とこれまでの成果を組み合わせながら戦略的に推進し、県内の森林・林業・木材産業の更なる活性化を図るため、現行のビジョンの見直しを行う。

2 ビジョン目標年

- 平成30年度を基準とし、10年後の令和10年度を目標とする。
- 森林・林業・木材産業を巡る情勢の変化等に柔軟かつ弾力的に対応するため、施策の追加等、適宜ビジョンの見直しを行う。

3 主な見直し概要

(1) 旧ビジョンの主な指標等の進捗状況

項目	旧ビジョン目標 (R2)	実績	
		H26	H30
素材生産量	38万m ³	23.9万m ³	30.5万m ³
間伐面積	4,200ha	3,000ha	3,155ha
再造林面積	200ha	24ha	56ha

【参考】

項目	H17	H22	H27
林業従事者数	593人	620人	690人
若年者率	13%	23%	26%
高齢者率	28%	21%	19%

(2) 新たな動き

項目	概要
森林経営管理制度の開始	・森林経営管理法が施行され新たな森林管理システム開始(H31.4)
皆伐再造林の着手	・日南町や千代川流域の各市町で林業成長産業化地域創出モデル事業での皆伐再造林開始(H29～) ・鳥取県森林づくり基金制度開始(H31.3)
スマート林業の展開	・鳥取県森林クラウドシステム運用開始(H30.9) ・レーザ航測データを活用した森林解析等が開始(H31～)
担い手確保に係る新たな動き	・とっとり林業技術訓練センター開設(H29.3) ・日南中国山地林業アカデミー開校(H31.4) ・日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取開催予定(R1.11)
木材利用の新たな動き	・木質バイオマス発電施設稼働(H27.2境港市、H29.1鳥取市) ・日南大建(株)設立(H31.3) ・(株)鳥取CLT操業(H31.4)

(3) 施策の方向性 (案)

施策テーマ	概要
森林を育て未来につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ○森林の有する多様な機能の発揮 <ul style="list-style-type: none"> ・健全な森林の育成 ・森林の若返りの促進 ・多様な主体で支える森林づくり ○持続的かつ健全な林業経営の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営の集積・集約化 ・スマート林業の推進 ・低コスト林業の推進 ○森林の適切な保全 <ul style="list-style-type: none"> ・災害等に強い森林づくりの推進
森林を舞台に人を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ○担い手の育成・確保 <ul style="list-style-type: none"> ・林業従事者の育成・確保 ・林業経営体の育成強化 ○働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・林業経営者の意識改革 ・林業従事者の安全向上 ○森や木に親しむ機会の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境教育・木育の推進
森の恵みを地域に活かす	<ul style="list-style-type: none"> ○県産材の利用拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・県産材の安定供給の推進 ・県産材の需要拡大 ・県産材製品の競争力の強化 ・県産材の魅力の発信 ○山村地域の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産物の生産振興 ・森林資源を活用した地域振興

4 鳥取県森林審議会での主な意見

- 市町村が主体となつて行う森林経営管理制度の円滑な運用に努めること。
- 森林の資源利用と森林の保全が共存できるようなビジョンを目指すこと。
- レーザ航測等をはじめスマート林業の取組に期待している。
- 新規就業者の確保に向けた取組を推進すること。
- 皆伐再造林の推進にあたっては、気象災害等を誘発することが無いよう配慮すること。
- 県民に森林等の魅力を伝えるため、木育などの一歩踏み込んだ取組を推進すること。

5 今後のスケジュール (予定)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| R1. 9～11月 | 森林組合・木材業者等と意見交換 |
| R1. 12月 | 見直し案の報告 (常任委員会) |
| R1. 12月～R2. 1月 | パブリックコメント |
| R2. 1～2月 | 見直し最終案の報告 (常任委員会、森林審議会) |
| R2. 2月 | 公表 |

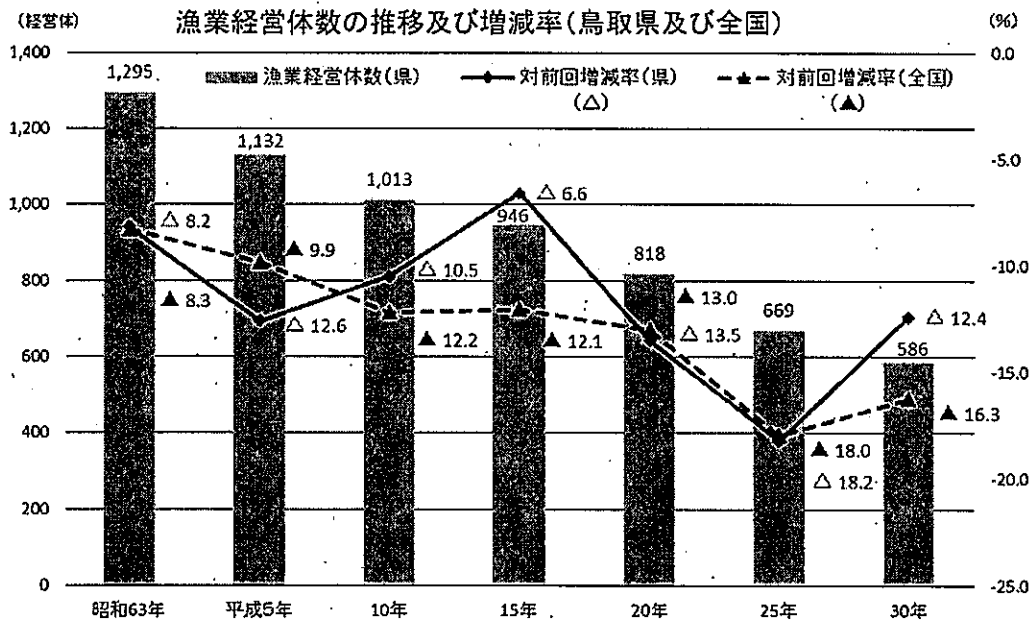
2018年漁業センサス鳥取県結果(概数値)の概要について

令和元年9月13日
統 計 課
水 産 課

2018年漁業センサス鳥取県結果(概数値)について取りまとめましたので、その概要を報告します。

- 漁業経営体数(個人、会社、漁業協同組合、漁業生産組合及び共同経営他)は586経営体で、2013年調査(以下「前回」という。)に比べ83経営体減少(対前回増減率(以下「前回比」という。)△12.4%)したが、前回値(同△18.2%)より5.8ポイント改善し、全国値(同△16.3%)と比べると3.9ポイント高い。
- 漁業就業者数(15歳以上)は1,125人で前回より195人減少したが、漁業就業者の構成比を年齢階層別にみると、全国と比べ59歳以下の割合が高く、特に20～29歳の構成比が4.5ポイント高い。
- 漁業経営体が所有する漁船の隻数は680隻で、前回に比べ76隻減少したが、前回比は△10.1%で、9.7ポイント改善し、全国値(前回比△13.4%)と比べると3.3ポイント高い。
- 漁獲販売金額は、100万円未満が237経営体(構成比40.4%)、100～300万円が154経営体(同26.3%)となり全体の6割を超えているが、販売金額1,000万円以上の経営体は、90経営体となり、前回比20.0%と増加し、全国値(前回比2.3%)と比べると17.7ポイント高い。

1 漁業経営体数



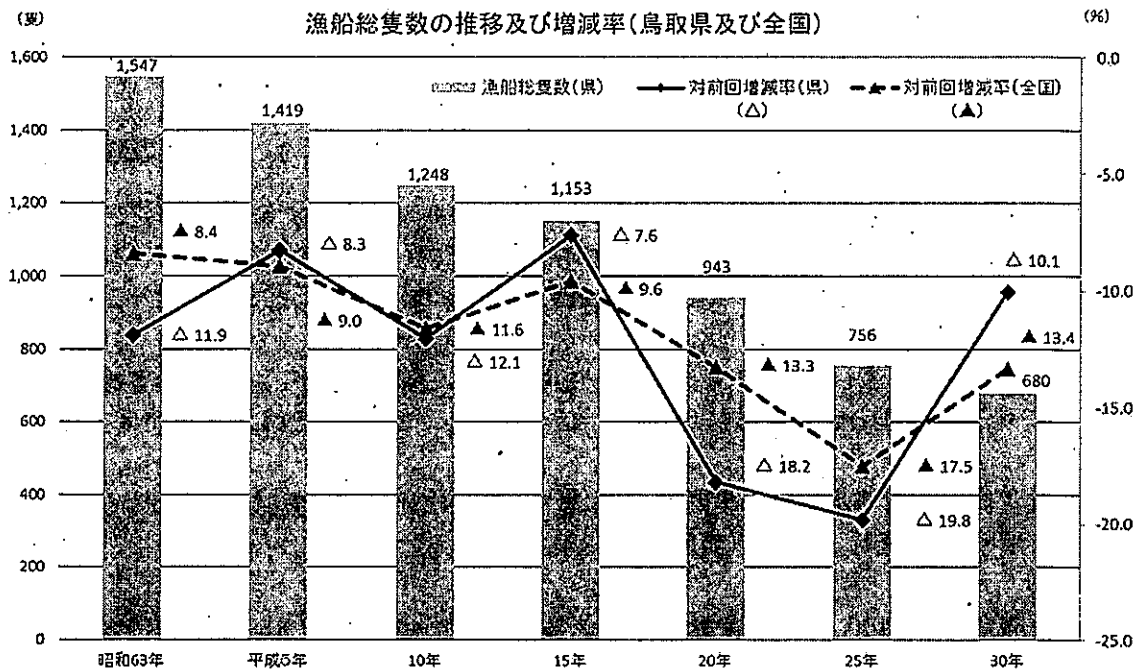
(注) 漁業経営体とは、過去1年間(平成29年11月1日～平成30年10月31日)に生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。

2 漁業就業者数

漁業就業者数(鳥取県及び全国)

区 分	鳥取県				全国			
	H25年		H30年		H25年		H30年	
	漁業就業者(人)	構成比(%)	漁業就業者(人)	構成比(%)	漁業就業者(人)	構成比(%)	漁業就業者(人)	構成比(%)
総 数	1,320	100.0	1,125	100.0	180,985	100.0	152,082	100.0
19歳以下	10	0.8	15	1.3	1,274	0.7	1,069	0.7
20～29歳	111	8.4	120	10.7	11,121	6.1	9,390	6.2
30～39歳	146	11.1	125	11.1	18,235	10.1	16,471	10.8
40～49歳	171	13.0	170	15.1	25,100	13.9	21,073	13.9
50～59歳	310	23.5	207	18.4	35,664	19.7	27,762	18.3
60～64歳	149	11.3	126	11.2	25,958	14.3	18,060	11.9
65～69歳	135	10.2	120	10.7	21,289	11.8	21,167	13.9
70～74歳	154	11.7	116	10.3	19,219	10.6	16,202	10.7
75歳以上	134	10.2	126	11.2	23,125	12.8	20,888	13.7

3 漁船総隻数



4 販売金額別経営体数

販売金額別経営体数(鳥取県及び全国)

区 分	鳥取県				全 国			
	H25年		H30年		H25年		H30年	
	経営体数 (経営体)	構成比 (%)	経営体数 (経営体)	構成比 (%)	経営体数 (経営体)	構成比 (%)	経営体数 (経営体)	構成比 (%)
総 数	669	100.0	586	100.0	94,507	100.0	79,142	100.0
販売金額なし	2	0.3	-	-	1,149	1.2	737	0.9
100万円未満	273	40.8	237	40.4	30,142	31.9	22,935	29.0
100以上～300万円	169	25.3	154	26.3	22,744	24.1	18,127	22.9
300～500万円	78	11.7	53	9.0	11,300	12.0	9,601	12.1
500～800万円	55	8.2	34	5.8	8,678	9.2	7,285	9.2
800～1,000万円	17	2.5	18	3.1	4,118	4.4	3,703	4.7
1,000～1,500万円	17	2.5	24	4.1	4,616	4.9	4,258	5.4
1,500～2,000万円	6	0.9	10	1.7	2,797	3.0	2,520	3.2
2,000～5,000万円	9	1.3	15	2.6	5,465	5.8	5,921	7.5
5,000～1億円	10	1.5	9	1.5	1,867	2.0	2,131	2.7
1～2億円	23	3.4	13	2.2	857	0.9	1,009	1.3
2～5億円	8	1.2	14	2.4	531	0.6	602	0.8
5～10億円	-	-	2	0.3	137	0.1	186	0.2
10億円以上	2	0.3	3	0.5	106	0.1	127	0.2
再掲	594	88.8	496	84.6	78,131	82.7	62,388	78.8
1,000万円未満	-	-	(前回比 △16.5)	-	-	-	(前回比 △20.1)	-
1,000万円以上	75	11.2	90	15.4	16,376	17.3	16,754	21.2
	-	-	(前回比 20.0)	-	-	-	(前回比 2.3)	-

2018年漁業センサス(海面漁業調査)の概要

- 調査の目的 2018年漁業センサスは、漁業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、漁村、水産物流通・加工業等の漁業を取りまく実態を総合的に把握し、水産行政の推進に必要な基礎資料及び農林水産省が実施する各種水産統計調査の母集団を整備することを目的として実施。
- 調査期日 平成30年11月1日現在
- 調査の対象 海面に沿う市区町村及び漁業法(昭和24年法律第267号)第86条第1項の規定により農林水産大臣が指定した市区町村の区域内にある海面漁業に係る漁業経営体等
- 調査事項
 - (1) 漁業種類、使用漁船、養殖施設その他漁業経営体の経営の状況等
 - (2) 個人経営体の世帯の状態及び世帯員の漁業就業日数その他の就業状況等
- 今後の公表予定
2018年漁業センサス(確定値)(全国・都道府県・市町村) 令和元年12月

ベニズワイガニの解禁について

令和元年9月13日
境港水産事務所

9月1日にベニズワイガニ漁が解禁となり、境漁港で9月6日に初水揚げが行われましたので、以下のとおり報告します。

初水揚げの結果

	初水揚げ日	水揚量	水揚金額	入港隻	最高値	平均単価
令和元年	9月6日	14トン	6,027千円	1隻	61,500円/箱	13,217円/箱
平成30年	9月7日	15トン	5,524千円	1隻	49,000円/箱	11,390円/箱

近年の水揚推移（1～12月集計）

	水揚量（トン）	金額（千円）	単価（円/kg）
平成30年	5,864	3,586,997	612
平成29年	7,295	3,433,436	471
平成28年	8,214	3,015,241	367
平成27年	8,473	2,528,786	298
平成26年	9,185	2,275,659	248

（統計資料：水産物取扱高統計報告書）

初セリ式の様子（9月6日午前7時～、4号上屋内）



<境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会>

- 会長 越河彰統（こしかわあきのり）（日本海冷凍魚（株）代表取締役社長）
- 構成 生産者、荷受（三卸）、田後漁業協同組合、境港鮮魚仲買協同組合、境港市観光協会、皆生温泉旅館組合、境港商工会議所、境港水産振興協会、境港市、鳥取県等
- 目的 「境港カニ水揚げ日本一」を、各種イベント等を通じて県内外に発信。境港に水揚げされるベニズワイガニ及びズワイガニの付加価値向上、消費の拡大、魚食の普及、ひいては境港の水産業及び観光業の振興を図る。

<今年度のベニズワイガニPRスケジュール>

- ・漁船出漁式（8月31日）
- ・初セリ式（9月6日）
- ・東京駅KITTEでのベニズワイガニPR（9月26、27日）
- ・阿佐ヶ谷ベニズワイガニ料理教室（9月28日）
- ・日韓国際交流鬼太郎カップ境港駅伝競走大会（10月14日）
- ・江戸川区葛西かに祭り（11月上旬）
- ・境港市内保育所でのカニ集会（11月上旬）
- ・JRA阪神競馬場の境港特別杯（12月7、8日）
- ・第17回カニ感謝祭（1月19日）
- ・その他、ウェルカニキャンペーンと連携したPRを実施する。



昨年の阿佐ヶ谷ベニズワイガニ料理教室の様子

<資源管理の取組>

- ・平成17年から、小型ガニを逃がすため脱出口（内径9.5cm）を付けた漁具に改良している。
- ・平成19年9月から、日本で初めて船舶ごとの年間漁獲量の上限を国が設定している。今漁期（令和元年9月1日から令和2年6月30日まで）境漁港に水揚げする船11隻の漁獲割当総量は8,501トン（前年：8,948トン）である。

<参考>

- ・今漁期の水揚量は、例年並みの漁獲量7～8千トン、水揚金額は、30億円程度の見込みである。
- ・境漁港に水揚げする船は、鳥取県船3隻、島根県船6隻、新潟県船2隻、合計11隻である。
- ・平成30年の境漁港の水揚シェアは全国の6.1%（速報値）で日本一であり、2位は香住漁港である。
- ・漁獲対象資源が低調となっており、国の研究機関による隠岐西方での調査では、資源回復までに3年程度かかる見込である。

鳥取県産品の情報発信に係る取組について

令和元年9月13日
販路拡大・輸出促進課

梨を中心とした鳥取県産品の知名度向上、ブランド化を図るため、次のとおり情報発信の取組を行いました。

1 県産梨の情報発信

(1) 卸売市場でのPR

県産二十世紀梨の初販売日を迎えるに当たり、大阪・東京において販売セレモニーを開催した。

今年梅雨時期の適度な降雨により大玉傾向となり、大玉の引き合いの強い貿易需要の要因などにより平均単価は近年で最も高くなった。

■関西地区：大阪市中央卸売市場本場（8月27日(火)）主催：JA全農とっとり

ア 実施内容：

・平井知事、わかとりメイツ（二十世紀梨大使）等による二十世紀梨のPR、試食

イ 参加者：梨生産者代表、県内3農協役員、JA全農とっとり、わかとりメイツ、県

(結果・反響等)

・販売数量 21,982箱/10kg詰 (18,256箱)、単価 439円/kg (396円) ※ () は前年数値

・セレモニー終了後、大果大阪青果(株)、大阪中央青果(株)へ知事トップセールスを行った。

■関東地区：東京都中央卸売市場大田市場（8月30日(金)）主催：JA全農とっとり、鳥取県

ア 実施内容：

わかとりメイツによる二十世紀梨のPR、試食

イ 参加者：梨生産者代表、JA全農とっとり、わかとりメイツ、県、

石破衆議院議員、赤沢衆議院議員、舞立参議院議員

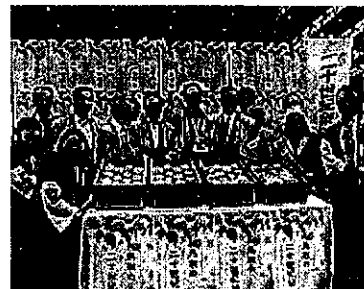
(結果・反響等)

・販売数量 1,500箱/10kg詰 (1,035箱)、単価 457円/kg (419円)

※ () は前年数値

・東京青果(株)川田社長をはじめとする市場関係者から鳥取の梨への

期待の声を頂いた。



(2) 首都圏高級フルーツ専門店でのPR

首都圏での鳥取県産「梨」のブランド化を進めるため、高級フルーツ店と連携したPRイベントを開催した。

■京橋千代屋アトレ恵比寿店（8月29日(木)）

・わかとりメイツが試食や説明を行い、新甘泉をPRした。

・青果取扱店：アトレ恵比寿店、京橋本店、大丸東京B1 ショップ、小田急新宿ハルク店の4店舗

(結果・反響等)

・当日はむし暑かったことから、通りがかりのお客様の多くが試食をされた。

・お客様からは「甘い」「みずみずしい」「食感がいい」といった声をいただいた。

■新宿高野本店（9月1日(日)、2日(月)）

○二十世紀・新甘泉試食販売

・生産者等により二十世紀梨・新甘泉の試食PR、知事トップセールス

(9月2日(月))を行った。

・敬老の日に向けて慶寿梨(樹齢70年以上の二十世紀梨ブランド名)

をギフト商品化して販売した。

(結果・反響等)

・若い方は、鳥取県の二十世紀梨を初めて知った方もあり、新たな味

として好評だった。

・年配の方は、二十世紀梨の懐かしの味を好むお客様が多くみられた。



○フルーツライブ教室

9月2日(月)に、テーマ「鳥取県 和梨」として、梨生産者、野菜ソムリエが県産梨の歴史、美味しい食べ方などを、一般消費者10名に紹介した。

(3) イベントPR

■ハローキティ新幹線×新甘泉（8月24日(土)）

新甘泉の知名度アップのため、岡山～新大阪間往復で試食PRを実施した。

(結果・反響等)

・新幹線内でPRしたことにより、名前に興味を持たれるお客様が多く、

知名度の向上につながった。

・さっぱりした甘さとシャキシャキとした食感が、幅広い年齢層、海外の

お客様にも好評だった。



2 百貨店・スーパー等でのフェア等

(1) 首都圏での取組

■銀座三越「鳥取フェア」(9月4日(水)～10日(火))

- ・販売品目：梨(二十世紀梨、新甘泉、梨ジュース)、米(プリンセスかおり、GABAライス)、鳥取和牛、ウイスキー、とうふちくわ、砂丘らっきょう、白バラ牛乳、ミニトマト等

・県内出展事業者：3社

- ・9月1日(日)に鳥取フェアのイベントとして、イタリア料理店「リストラテアクアパッツア」の日高シェフを講師に迎え、プリンセスかおりを使った料理教室を開催した。

(結果・反響等)

- ・お客様は新甘泉の甘さと食感の良さに驚かれ、購買につながった。
- ・二十世紀梨を合わせて買っていかれるお客様も複数いらっしゃった。



■横浜タカシマヤ「鳥取 大山フェア」(8月28日(水)～9月3日(火))

- ・販売品目：二十世紀梨、新甘泉、梨ジュース、大山おこわ、アカモク、あごちくわ、大風呂敷等

- ・県内出展事業者：10社(ありのみ倶楽部、とっとりなしお商店、漁師一家三幸丸、高塚かまぼこ店、宝製菓、田畑商店、吾左衛門本舗、鳥取からあげこてつ家、大山ハム、米子屋旅館)

(結果・反響等)

- ・季節感のある売り場展開となり、常にお客様が試食、購入される状況で、二十世紀梨、新甘泉ともに盛況であった。

■スーパーいなげや鳥取梨フェア(8月31日(土)～9月8日(日))

- ・約100店舗(千葉県を除く全店舗)において二十世紀梨と新甘泉の販売実施

- ・15店舗において新甘泉の試食宣伝販売実施

(結果・反響等)

- ・今年で3年目の開催となり、少しずつ定着しつつあり、常連客を中心に試食、販売が好評だった。

■鳥取県・岡山県共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」鳥取梨フェア

(8月25日(日)～9月9日(月))

- ・販売品目：二十世紀梨、新甘泉、真寿、秋栄、なつひめ等

- ・8月30日は、二十世紀梨と新甘泉の試食を実施した。

(結果・反響等)

- ・二十世紀梨と新甘泉の食べ比べを行ったところ、お客様は味の違いに驚かれ、好みの方の梨を購入されていた。
- ・フェア期間中は単品だけでなく、箱入りで購入されるお客様も多かった。



(2) 名京阪神での取組

■JR名古屋タカシマヤ(8月28日(水)～9月3日(火))

- ・販売品目：二十世紀梨、秋栄、新甘泉、二十世紀梨ジュース

- ・8月30日(金)～9月1日(日)は、梨の試食を実施した。

(結果・反響等)

- ・TVで新甘泉が放映されたこともあり、新甘泉がよく売れたが、秋栄のジュシーさ、甘さに驚かれ購入されるお客様も多かった。
- ・名古屋であまりみかけない二十世紀梨を求めるお客様も一定数いらした。
- ・期間中の売り上げは予想を上回り、お店にも大変喜ばれた。



■松坂屋高槻「鳥取フェア」(8月28日(水)～9月8日(日))

- ・販売品目：二十世紀梨、新甘泉、ねばりっこ、紅ズワイガニ井、アカモク、北条ワイン、打吹公園団子、大山かいな鶏等

(結果・反響等)

- ・雨天にも関わらず、二十世紀梨を懐かしがられるお客様や、甘く食感の良い新甘泉に驚かれ、購入されるお客様も多くいらした。

■KOHYO(株)光洋 鳥取梨フェア(9月7日(土)、8日(日))

- ・取扱店舗：全店(約80店舗うち11店舗で試食宣伝販売)

- ・販売品目：二十世紀梨、新甘泉、秋栄、加工品(山田店のみ)

(結果・反響等)

- ・県や全農ととつりが販促を行った店舗では、売り上げが好調で試食PRに多くのお客様が集まり、二十世紀梨や新甘泉がよく売れた。

